

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第290回

浜田雅功（ダウントウン）

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年1月26日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉

あいつ（松本人志）の他に誰がおんねん？

他の人と笑いはでけへん（できない）。

浜田 雅功は日本のお笑いタレント、漫才師、歌手、俳優、司会者。お笑いコンビ・ダウントウンのツッコミ担当。相方は松本人志。愛称は浜ちゃん。妻は小川菜摘。長男はOKAMOTO'Sのベーシスト・ハマ・オカモト。



Column

現在の日本一有名と言っても過言ではないお笑いコンビである『ダウントウン』のツッコミとしてだけでなく、バラエティ番組のMCを含めた出演、ドラマ・CMへの出演、アーティストとしても大ヒットを記録する活躍で、本当にマルチな才能を発揮しています。そんな浜田さんですから、相方である松本さん以外の人とコンビを組んでいたとしても、相方を持たない“ピン芸人”だったとしても、きっとバラエティ界において自分の存在を大きく示すことができたはず。ですから今回の言葉は謙遜してのコメントだと感じる内容ですが、私は今回の言葉の裏には浜田さんの『本音』が詰まっているように感じました。

少々怖いキャラクターで細かいことは気にせず我が道を行くというようなイメージの浜田さんですが、浜田さんという“プロフェッショナル”にとって、松本さんという存在はパートナーとして『唯一無二の存在』であるということがよくわかります。きっと彼以外とでは本人の目指す“最高のお笑い”には到達することはできないという気持ちが非常に強く、松本さんに対する信頼と尊敬から来るコンビ愛の大きさや、誰よりも松本さんのことを高く評価して『自慢の相方』だと感じているのでしょう。そして、松本さんに活かされることによって自分の可能性が大きく広がるということをよく理解しているとも感じました。自己分析もしっかりとできている人物であることが感じられます。そして、複数持っている自分の“武器”の中で一番大切にしているものが『お笑い』であり、これだけは“誰にも負けたくない”と思っているものであり、『相方こそが最強の武器』なのだろうと感じました。

ここまで文章を書きながら『浜田さんの中では現在の立場が適正であるという感覚はないのかもしれない』と感じました。幼い頃からの友達である松本さんをお笑いの道に誘ったのは浜田さんだそうですが、関西で育ったということもあって選択肢が“たまたま”お笑いだっただけで、『松本さんとならなんだってできる!』という感覚だったのかもしれない。友達としても相方としてもかなり長い付き合い担っている間柄で、これまでの道のりの中でずっと対立したこともあるでしょう。それでも松本さんは自分自身の中で絶対的な存在であることが揺るがないからこそ現在もコンビとしてもソロ活動でもお互いがお互いを照らし、輝き続けているのだと思います。みなさんには『唯一無二の存在』と言える仲間がいますか？